

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400523		
法人名	特定非営利活動法人ウエルネットぎふ		
事業所名	ロングステイホームぬくもり		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町新町2504番地1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400523-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様が作品作りが好きで、季節毎の作品などを、月に2種類～3種類(共同作品を含む)作られています。出来上がった作品を皆様が「よくできたね!」と笑顔で話し合う一体感も素晴らしいと感じています。入浴については安心・安全に清潔保持できるよう、特殊浴槽を設置して気持ちよく入浴して頂いています。元々1Fの地域密着型通所介護との連携でデイサービスでの交流も盛んでしたが、新型コロナの感染対策で、イベントや外出もできなくなりました。その中でも駐車場を利用してのボール遊びや近隣の散歩など工夫して気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、歴史ある街並みにあった旧銀行を改築して運営している。通所介護や移送サービス等の事業も展開し、地元住民の福祉相談の窓口的な役割も担っている。また、利用者の在宅復帰を目指して支援するとし、「グループホーム」ではなく「ロングステイホーム」と命名している事業所である。利用者の状態に合わせて、最適なリハビリを行いながら、残存機能の維持と向上に向けて支援を実践している。毎月、イベント案内として、行事予定や利用者の健康状態、日常生活の様子、血液検査結果等を家族に送付している。職員は様々な研修で学びながら、日々、専門職としての資質向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関に理念が掲示されており、利用者やご家族様との間に問題等が発生した時は理念に基づき解決に向けた会議を開催し職員全体の意識高揚を図っています。	事業所は「時間を大切に！・思いやりの心・家族の絆を大切に」等を理念に掲げ、職員の目に付く場所に掲示している。職員会議やミーティングで理念を共有し、日常の介護が理念に沿っているかを常に振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺を散歩したり、近所に多くある寺社を参拝。地域(竹鼻)のお祭りや幸種市を見学するなど地域との交流を図っています。	自治会に加入し、回覧、広報を通じて地域行事の情報を得ながら、地域の祭り等に参加したり、地域との交流を深めている。学生の介護体験を受け入れ、次世代育成に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街灯を設置し地域の防犯に努める一方、ゴミ等の収集場所として駐車場の一角を提供しています。また地域の皆さんや利用者の休憩所としてベンチを設置しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナ禍の影響で書面だけの運営推進となりましたが、感染症の再認識を図る良い結果となっています。面会も制限しています。	通常は、運営推進会議を隔月に開催し、家族、自治会、行政、民生委員等が参加し、行事報告や今後の取り組みについて意見交換し、提案も受けている。現在は、新型コロナ感染予防対策として書面会議とし、運営についての意見や要望、コメントを受け、それらの報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、当施設の組織体制が変更になった事など相談を含めた連携を密にしています。	運営推進会議の際には、地域高齢者の実態、介護保険の動向について報告を受けている。事業所の困難事例や運営の実情なども報告し、助言、指導を得ている。日々、行政担当者と連絡を密にし、協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての説明書を作成し施設内でマニュアルに基づき研修しています。現在は身体拘束の該当者はいません。	身体拘束等の適正化のための対策会議を定期的に行っている。職員は、拘束についての研修を重ねながら、利用者の尊厳と主体性を尊重し、身体拘束廃止に向けて意識を高めている。さらに、言葉による拘束も含めて拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてはマニュアルを作成し、これに基づき研修を実施。職員にそのような行動が見られた場合は個別に指導しています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について研修を実施しています。今のところ必要性のある利用者はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の約款に基づき説明しており、詳細は別紙にて説明しております。質問や疑問点などが無いか確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在の新型コロナ禍の為運営推進会議の開催ができていません。ご家族様宛にお手紙にてご意見等を伺いましたが、運営に関するご意見等はありませんでした。	家族の意見や要望は、訪問時に時間をかけて聞くよう努めている。毎月、イベント案内と併せて、担当職員が把握している利用者の様子や健康状態など、文書化して送付している。現在は面会を制限している為、家族から、利用者の様子を知ることが出来たと喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング前にアンケートを提出し職員の意見など話を聞く機会があります。またご意見箱を設置しているので言いにくい場合もこれを利用して情報の収集に努めている。	日常的に管理者も現場に入っており、職員の意見や気付きを聞き、意見交換している。管理者は、器具の不具合や、利用者間の人間関係なども把握し、改善できるよう努めている。風通しの良い職場環境作りに取り組み、職員の定着率も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のキャリアパス制度を利用し、勤務状況を把握し働き甲斐のある職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員の入職時は、派遣やパート職員も含めオリエンテーションを行っています。外部研修は新型コロナ禍の状況を確認しつつ資格取得や研修、講習の調整をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループ協会主催の会議や研修にも積極的に参加していますが、今年は新型コロナの影響で参加できておりません。機会をみて参加したいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	誰でも初めは環境が変わり不安や戸惑いや要望があると思うので、就寝前に居室に伺い傾聴し安心していただくように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたりご家族の不安や要望を伺いどのような支援が必要か具体的な話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を把握し、趣味や得意な事など施設で出来ることを一緒に考え支援しているようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒にできる事は行動を共にして家族のような関係を築いています。話相手、洗濯物を畳む、食器を拭くなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当法人の運営理念を説明しご家族様との絆を大切に、利用者やご家族様と積極的に電話での連絡や面会時の会話などにてコミュニケーションをとり支えあっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍でなかなか思うような支援ができませんが、状況が許されるようになってきましたら、馴染みの喫茶店や季節のお花見外出ができるようにしたい。	コロナ禍以前は、家族や知人の訪問も多く、併設のデイサービス利用者と交流したり、近隣の喫茶店や地域の行事に参加するなど、馴染みの関係を支援していた。現在は、三密を避けられる環境を整えながら、限られた人のみ、訪問を受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月のおやつ作りや共同作品作りなどで、1つのテーブルにて他の利用者と一緒に和気藹々協力しながら実施できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が外出時、ご家族に偶然お会いした時にご家族様から声をかけて頂けたのは良好な関係が築かれていたと思う。その後の様子が聞けたのも良かった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で利用者の意向を確認し把握に努めています。時には食べたいものを聞いて応えるようにしている。	職員一人ひとりが、ゆとりを持って支援にあたり、朝の挨拶では、現在の状況や社会での話題にも触れながら、利用者の思いを聞いている。また、居室にて個々の関心事や好きな食べ物を話題に声かけしたり、意思表示が困難な場合は、表情やしぐさからも把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス計画書にこれまでの暮らし方が記載してあるので、居室の飾りつけに工夫して寂しくないように努めています。また、ご本人のお話やご家族の希望に耳を傾けて個別の対応をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者の支援経過の記録、バイタル測定や食事量などの情報は全職員が共有し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者の問題点などを話し合い職員間の共通認識とし、サービス計画に反映するようにしている。	介護計画は、家族の訪問時や電話等で意向を確認し、作成している。介護記録を基に、医療関係者の意見を聞き、職員間で課題点についても話し合いながら、介護計画を作成している。利用者のニーズに合わせて、適時、見直しを行っている。	サービス担当者会議は、出来る限り、家族と日程を調整し、家族も参加できる事が望ましい。家族が、普段の利用者の状態、介護計画について十分理解し、共に作成していく取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し毎朝の申し送りと申し送りノートを利用して全職員が情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏や精神状態がよくない利用者があった場合や天候が影響した不安定な気持ちを和らげる為に散歩や外出など個別対応を行っている。		

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の竹鼻別院の藤まつり、本覚寺の種幸市や大仏公園の桜見物、商店街を散策しながら楽しんでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診があり、常に主治医との連携が取れています。 また、看護師が平日勤務しているので、状態により他科受診や紹介をして頂くなど連携を密にとっています。	かかりつけ医については、契約時に選択できる趣旨を説明している。現在、ほとんどの利用者が、協力医による2週間に1回の往診を受けている。職員として看護師を配置しており、日々、医療機関と連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は看護師(正看)が勤務している為、些細な事でも職員は看護師に確認できる体制となっています。入浴時の全身観察にて状態の早期発見ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関(羽島皮膚科内科、青山内科)と羽島市民病院とは患者情報を共有しGH利用者の入退院の連携を保っています。入院中は病院と家族と細目に連絡を取り状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の意向を確認しています。終末期は家族の希望がある場合は看取りを行います。今までも看取りの経験はあります。今後も様々なケースに対応できるよう、柔軟な対応に努めていきます。	契約時に、重度化や終末期の支援について、事業所の指針を説明し同意を得ている。状態の変化時には関係者が早い段階で利用者や家族と十分に話し合い、事業所で出来ること、出来ないことを説明し、方針を決定、共有している。看取りを希望する家族には、状況に合わせて柔軟な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、異常時や緊急時は看護師等によりの確かな指示ができるようにに常日頃訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを完備し、夜間の火災通報及び避難訓練を定期的を実施しています。緊急連絡網も整備されており。今後は地域の方と具体的な協力体制ができるよう防災訓練の計画を進めています。	年2回、消防署協力の下、夜間想定を含めて、火災、地震、水害等の避難訓練を実施している。緊急連絡網を整備し、備蓄についても定期的に点検を行っているが、地域との協力体制の構築に課題もある。	事業所の存在や取り組みを周知できるよう、地域の防災訓練に積極的に参加することが望ましい。さらに事業所の防災訓練時には、近隣の協力を得られるよう工夫し、全職員の防災意識を高める取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃より言葉づかいに気を付け、排せつや入浴時にはカーテンや恥ずかしさを意識した対応で利用者の尊厳を守ります。	個別の支援課題については、職員が居室にて利用者の思いを聞き、受け止めている。常に利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけ、利用者が安心して日常生活が送れるよう、支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の意思を汲み取り思いや希望に沿えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「利用者ファースト」で運営方針でもある「職員と利用者が共に生活する喜びを知る」個々の利用者の状態を把握し、どのようにしたら喜んで頂けるかを聞き支援に繋げています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者ばかりですので、身だしなみやおしゃれには大変気を使われます。入浴日前日には洋服を利用者と一緒に選び準備します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時には利用者の希望する物を職員と一緒に準備したり、味噌汁の具などをカットしたり食器なども率先して手伝っています。	おかずは配食サービスを利用しているが、ご飯や汁物は事業所で作り、利用者の嚥下状態に配慮した形態で提供している。利用者の希望を聞きながら、食事やおやつを共に作る日を設けて、皆で楽しんでいる。イベント食や日常の食事内容を家族に送付し、個々の状態も報告している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量や水分量を毎日把握し健康管理に努めています。また年中を通し夜間の水分補給ができるようペットボトルにお茶を入れて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアの実施ご自身ができない利用者には介助し清潔保持に努めている。義歯などに不具合がある時はご家族様に連絡し歯科受診をしていただいている。		

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は排せつの感覚がない利用者には定期的にトイレ誘導し排せつを促している。夜間は転倒防止の為ホータブルトイレを用意し、利用していただいています。	声掛けと誘導で、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。夜は安全面に配慮し、夜間用パッドやポータブルトイレで対応をしている。また、排泄用品について、低価格でも品質の変わらない商品を紹介するなど、家族の負担費用の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて毎日の排便回数や便の状態を管理しています。便秘ぎみの利用者には水分摂取を多くしたり、薬が必要な場合は薬にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみな入浴を安心、安全にできるよう機械浴にて実施しています。利用者の健康状態により、無理な入浴は避けて安全を優先しています。	入浴は、利用者の楽しみでもあり、安心・安全な入浴ができる特殊浴槽を設置している。職員の身体的負担も少なく、ゆとりを持ってコミュニケーションを図ることができ、入浴が利用者の至福の時間となるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今年から13時から14時までは居室にて自由時間を過ごされており、ほとんどの利用者がベットで横になっています。短時間ですが身体が楽になったと言われてます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は利用者にとって必要不可欠なものであり、飲み忘れや誤薬がないように服薬表にて二人が確認してサインしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食後から就寝までの自由な時間は思い思いの時間を過ごしています。写経、ナンプレ、広告で折り紙など個人差はありますが自由な時間を尊重しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外に出てボール遊びや言葉遊び、施設周辺の散歩などがありますが、今はコロナの影響で家族との外出などが出来ていませんが、逆にご家族が来所され個別に談話室で誕生会などをされている利用者もあります。面会は個別に短時間で換気の良い談話室で実施しています。	利用者の健康状態を確認しながら、天気の良い日は、広い庭でリハビリを兼ねたレクリエーションや外気浴、周辺の散歩を楽しんでいる。現在は、新型コロナの感染予防対策として、家族との食事や買い物等の外出は難しい状況であるが、工夫をしながら談話室で過ごしたり、短時間の面会を支援している。	

岐阜県 ロングステイホームぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はコロナ禍にて外出買い物などは行っていませんが、施設内で金銭の所持は紛失などの懸念があるので禁止しています。外出できた時は月に1回程度、喫茶店や買い物に同行し金銭感覚の保持に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話したり手紙のやりとりする際はご家族の了解を得てからにしていますが、今のところそのような利用者はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設のレイアウト上洗面所や厨房から利用者の状況が分からないので、特に夜間は不安な面があります。共有の壁には利用者の作品が掲示されており賑わっています。	元銀行であった建物の2階である事から、レイアウト上、死角になる部分もあるが、職員の目配りと気配りで、利用者が安全に過ごせるよう見守っている。福祉用具利用者も安心して往来ができる広さがあり、風通しも良い。壁には利用者の手作り作品やイベント写真などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での一人一人の居場所は無いが、机の配置を変更して気分転換ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様が談話の為にいられても十分な広さがあり、テーブルや家具などを持込み思い思いに過ごされています。また作られた作品を部屋に飾って楽しんでおられます。	居室は広く、窓も大きい。車椅子やポータブルトイレが必要となった場合にも、ゆとりがあり、介護ベッド、整理ダンスも備えている。使い慣れた家具や小物を持ちこみ、手作り作品や家族の写真を飾り、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内においてはトイレや居室の名前など目印や張り紙などで誘導の工夫をしています。		